



棒銀の研究



●相居飛車ではお互いに角頭が弱点

相居飛車では角頭（二三地点）がお互いに弱く、そこはあまり補強できない。なのでお互いにそこを狙う手を頭に入れて戦う。



上の図を見てみましょう。

後手は二三への利きは金1つしかないのが分かります。

現状では攻め駒飛車一枚では破れませんが、もう一枚足して2枚の攻め駒で攻めていけば破れます。持ち駒がないので盤上の駒を使います。3九の銀です。これを繰り出していきます。



これで二三への利きは守り1攻め2となるので破れます。

棒銀はこのように銀がまっすぐに出ていく作戦ですが、まっすぐに出ていなくても飛車と銀が協力すれば相手陣を破ることができます。例えば持駒の銀を打つなど。棒銀だと銀がまっすぐ進むイメージしかないので「飛車と銀の協力形」と呼んでもいいでしょう。棒銀という呼び名よりもむしろこちらを覚えてください。

●反撃の第一歩が飛車と銀が協力して2三地点を狙うこと

下の図面は原始中飛車の猛攻を先手が受け切ったところ。そろそろ反撃を狙いたい所ですが、このような場合にピント外れの場所を狙うと渡した駒で攻められてすぐに負けてしまう。相手の一番弱い地点を狙わなければならない。



▲4五銀と打つ手が一石二鳥の好手。この後の攻めが棒銀と同じように飛車先突破を目指す。



上の図は坂田三吉王将と関根金次郎名人の対局です。ここから▲4五銀が好手。



●よくある棒銀が失敗するパターン

上の図はゴキゲン中飛車に棒銀（飛車と銀の協力形）で攻めようとしたところ。▲3五歩と仕掛けてみます。以下▲5六歩とされると▲5五角を見せられてうまくいかない。この図に限らず振り飛車への棒銀は2三地点から玉が遠く離れているために成功しにくい。ただ2三地点が弱点であることには変わりありません。